

第 2 回厚木市本厚木駅周辺まちづくり推進会議

(2) 目指すまちの姿について

< 論点 >

1. ポテンシャルを踏まえた目指すまちの姿について
2. 目指すまちの姿の実現に向けた方針について
3. ゾーニングと各エリアの目指すまちの姿について

1 目指すまちの姿の考え方

まちづくりに求められていること

- ✓ 本厚木駅周辺では複数のエリアで都市機能や都市基盤の更新を控えており、**官民一体で歩いて楽しいまちづくりを推進する好機**を迎えている。
- ✓ まちなかのにぎわいや魅力向上につながる空間の利活用を図る取組が活発化しており、ライフスタイルの変化に対応したまちづくりが求められている。

本厚木駅周辺のポテンシャル

- ✓ **歩行者中心のまちづくりの資源**がある一方で、**歩きたくなる環境**が不足している。

〈歩行者中心のまちづくりの資源〉

都市公園、都市機能等の更新、一般車進入規制、2つの交通結節点、昼夜間人口比率等

〈歩きたくなる環境〉

ランドマーク、休憩施設、路上駐停車対策、日常的な仕掛け等

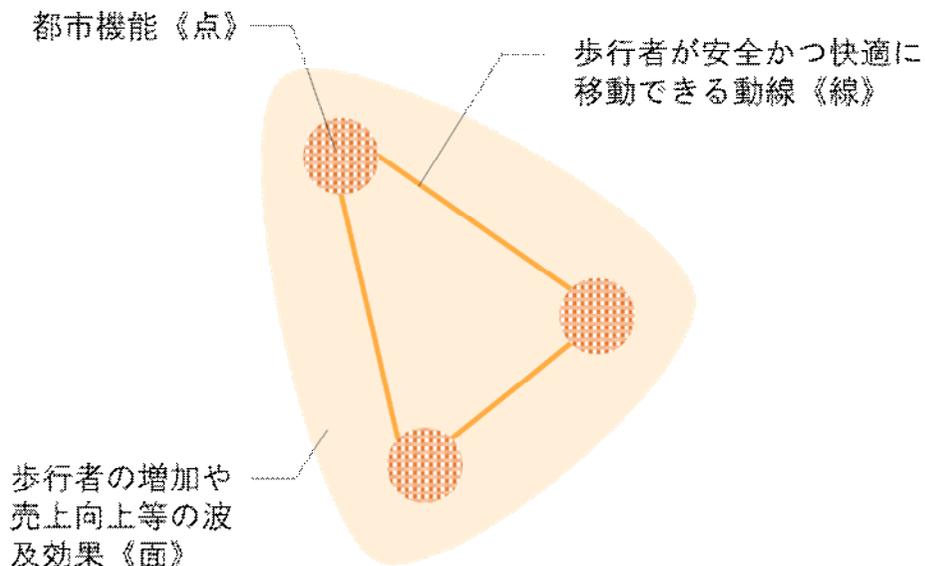
本厚木駅周辺の歩いて楽しいまちには、
『官民連携』・『歩きやすさ』・『歩くきっかけ』が必要

目指すまちの姿の考え方

①施設単位ではなく、官民一体でエリアごとの強みを活かして、まちに人を引き寄せる。

②まちを訪れる人（歩行者）が歩きやすく・歩きたくなる空間で施設や空間をつなぐ。

③まち全体で、にぎわいや魅力向上を享受する。



2つの結節点から拡がり、豊かな日常の光景が点在する「歩いて楽しいまち」

本厚木駅と厚木バスセンターの2つの結節点はまちなかを歩くきっかけとなる重要な拠点である。それらと一番街通りを始めとする商業施設や公共空間を結ぶ歩行者動線の充実、さらには通勤や通学、移動の途中などにもつい立ち寄りたくなる仕掛けなどによって、乗換動線だけでない豊かな日常の光景が点在する“歩いて楽しいまち”を目指す。

方針1 歩きやすい空間づくり

- 人が集まる施設や空間を歩行者中心の空間でつなぎ、その周辺ににぎわいを生み出す。災害時にも安全に移動できる空間を形成する。

方針2 まち歩きのきっかけづくり

- 民間事業者等に既存ストックであるオープンスペースの利活用を促し、まちを訪れた人たちが思い思いの時間を過ごしたり、まちを訪れるきっかけを作り出す。

方針3 自分ごとでまちを育む

- 目指すまちの姿の実現に向けて、まちづくりのプレイヤーとなりうる民間事業者や住民の皆様、行政等が連携して、持続的にまちの魅力や価値を高める。

目指すまちの姿（案）のイメージ ～回遊エリアと周辺資源を結ぶサブネットワークの形成～

まち歩きのきっかけづくり



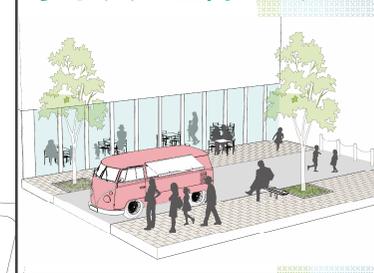
〈例〉都市公園等のストック活用

自分ごとでまちを育む

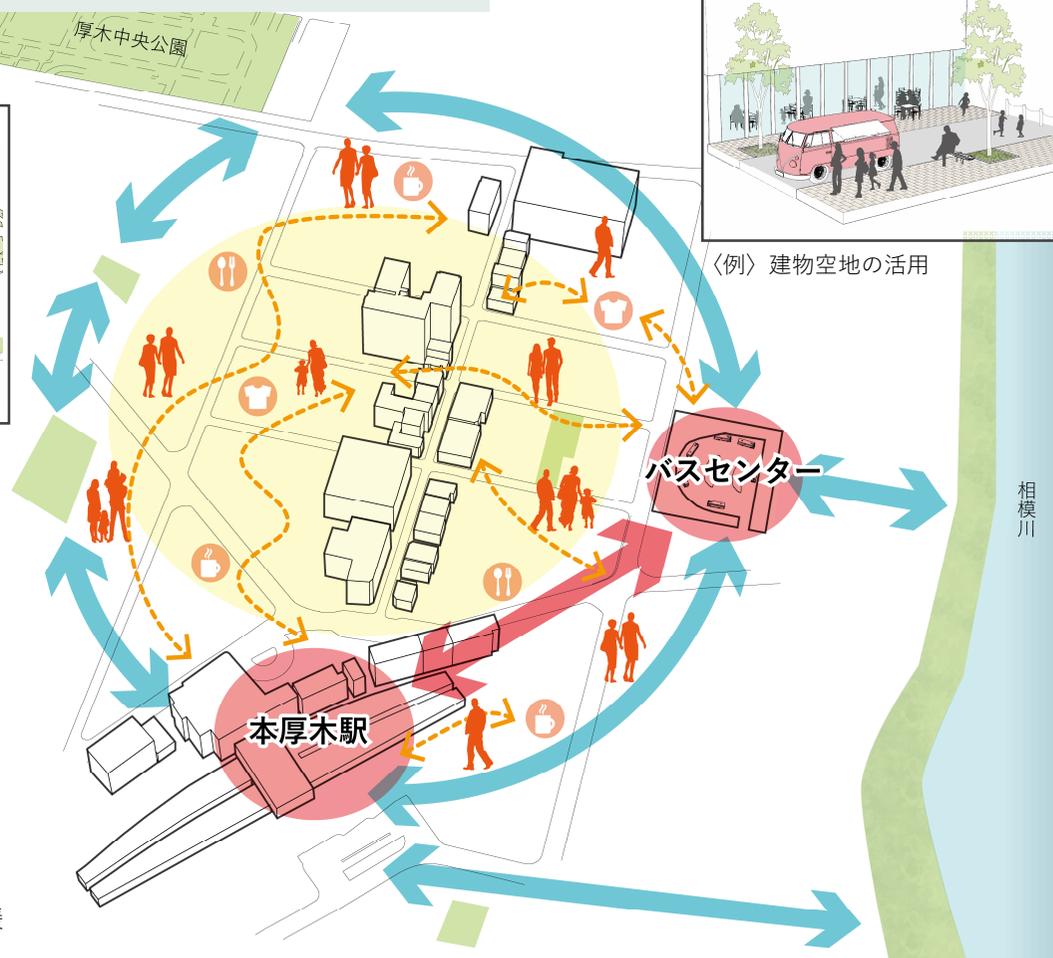


〈例〉市民によるまちづくりの支援
(備品の貸出、利用窓口の整備等)

歩きやすい空間づくり

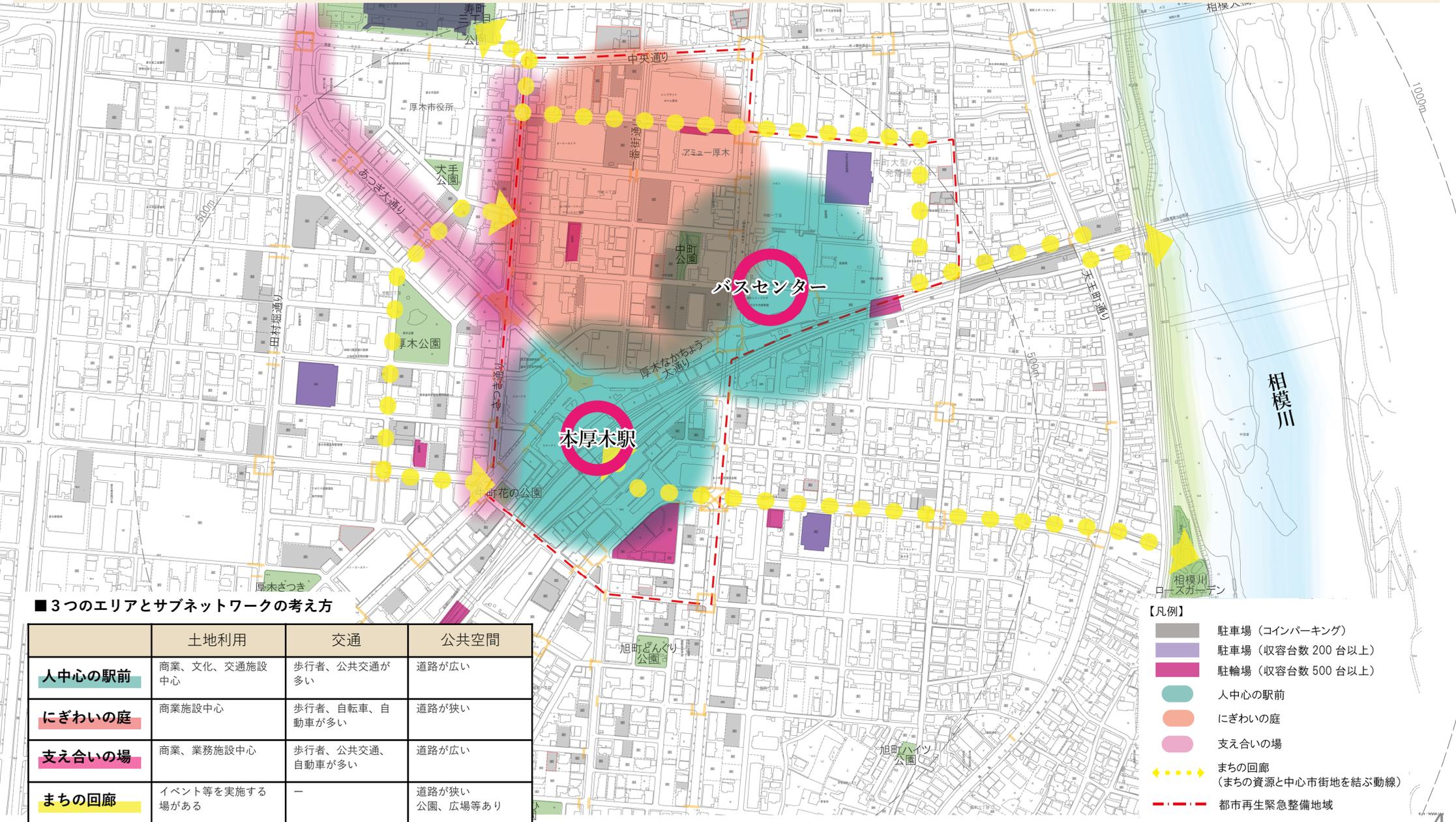


〈例〉建物空地の活用



2 目指すまちの姿（案） ゾーニング

現在の土地利用の特徴、交通手段ごとの主要動線、公共空間の整備状況に着目し、
 “回遊の中心となる3つのエリア”と“その周辺を結ぶサブネットワーク”を設定



A：人中心の駅前

□ 現在（ゾーニングの考え方）

土地利用	交通	公共空間
商業、文化、交通施設中心	歩行者、公共交通が多い	道路が広い



□ 将来（目指すまちの姿）

厚木市全体の魅力向上につながる歩行者と公共交通中心の”にぎわい”と”ゆとり”が充実した空間を目指す。

〈活動イメージ〉

- ・ 本厚木駅や厚木バスセンターを利用する人が行き交い、買い物や飲食、公共交通の利用を目的とする歩行者が多く集まる。
- ・ 本厚木駅周辺を訪れたいくなる魅力的な「人中心」の充実した空間があり、周辺エリアとの自然なつながりで、周辺エリアも含めた通勤・通学ついでの食事や買い物等の活動を支える。



B：にぎわいの庭

□ 現在（ゾーニングの考え方）

土地利用	交通	公共空間
商業施設中心	歩行者、自転車、自動車が 多い	道路が狭い

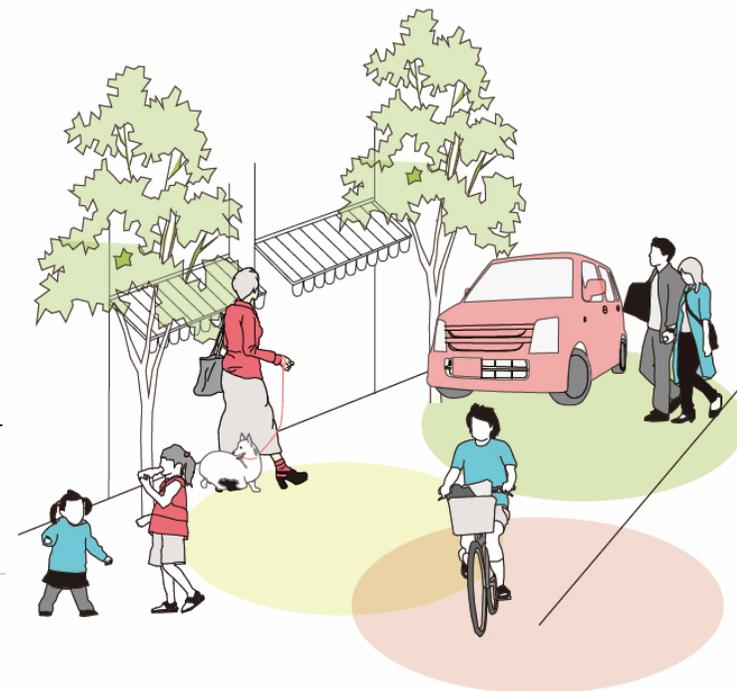


□ 将来（目指すまちの姿）

歩行者が快適にまち歩きし、自転車が安全に移動できる空間を目指す。

〈活動イメージ〉

- ・南北を貫く一番街通りを中心に、商業施設が連続的に存在し、車を気にせずゆったり歩くことのできる。
- ・ここにしかないお店やちょっと休める場所を巡り、ぶらぶらとまち歩きを楽しむ活動を支える。



C：支え合いの場

□ 現在（ゾーニングの考え方）

土地利用	交通	公共空間
商業、業務施設中心	歩行者、公共交通、自動車が多い	道路が広い



□ 将来（目指すまちの姿）

多様なニーズ（移動、滞在、にぎわい、乗降等）が共存する空間を目指す。

〈活動イメージ〉

- ・ あつぎ大通りやさつき通りを中心に、商業施設や業務施設が存在し、バス、自動車、歩行者が行き交いながらも多様な都市活動が共存する。
- ・ 道路と沿道空間が連携して、通行だけでなく働く人の憩いの場やバスの乗降等の活動を支える。



D：まちの回廊

□ 現在（ゾーニングの考え方）

土地利用	交通	公共空間
イベント等を実施する場あり	—	道路が狭い 公園、広場等あり



□ 将来（目指すまちの姿）

各エリアやその周辺で生まれた人の流れを互いにつなぎ合う
歩行者や自転車が安全に移動できる空間を目指す。

〈活動イメージ〉

- ・ 歩きやすい道で各エリアやその周辺をつなぎ合う。
- ・ 点在する公園や広場等のオープンスペースで、日常的な移動や散歩だけでなく、イベント時の移動等の活動を支える。

